

# 個人的映画感想

(よりぬきpiroブログ)

piroaki7



勢いのなくなった太陽に、核ミサイルをうちこんで活性化させる任務を持った宇宙船が映画の舞台です。

この閉塞感。密室劇です。 本当の事を言うとすごいB級を想像してたんですが、いい意味で裏切られました。

マニアックな映画なのにオバサマ方が多く入ってるのは、やはり真田広之効果でしょうか？（たぶん招待券の消化？）

ダルイ内容かと思いきや上映時間があっという間に過ぎました。

正直、心臓に悪い展開をします。映像自体にチープさは感じられません。

危機の連続。しかし、向かう先はどちらにしても死。

壮大な自殺です。

どうしようもない悲壮感。

落ち込んでる時には見ないように。

SF好きには、だいたいオチ部分の想像はつくと思いますが、やっぱり説明不足ですね。

いろんな判断はできるとは思います。

そしてラストのスタッフロールで流れる音楽がまた切なさをUP

## ヘルボーイ

---

評判は聞いてましたが面白いです。

ナチスのオカルト研究は有名けども、それにラスプーチンが加担していたという設定。異界の門を開き、そこから邪神復活を目論むわけですが…。実際に異界から現れたのは、赤い赤ん坊だった。

で、連合軍のジョン博士に救われて、育てられる赤ん坊。彼につけられた名前は「ヘルボーイ」成長した彼は、FBIのオカルト捜査官として活躍する。

まずなんと言ってもヘルボーイのキャラクターがイイ！！強くて乱暴なんだけども、やさしいところもあって、すごくいいキャラです。

彼以外にも味のあるキャラクターがそろっています。知的な半魚人や、火を操る女性。いずれも社会から阻害される存在であるわけですが、組織の中には妙な連帯感があって面白いです。そして、ヘルボーイといがみ合っていた長官(?)とヘルボーイの思わずニヤリとしてしまうシーンもあって、なかなか面白いです。

映像面でもクオリティがすごく、最初のモンスターとの戦いも迫力満点です。モンスター好きにもお勧めです。後半のかわいそうなガイドゾンビふくめ見てて退屈しません。

本当に肩が凝らずに、楽しめる映画です。

## XMEN3ファイナルディビジョン

---

実は2を見てないんだけども、けっこう楽しめました。

ストーリー自体は単純明快なのに、人種問題も含んでなかなかのテーマ性を持っています。あまりネタバレをすると面白くないですが、ええっ、まさかこのキャラが！といった意外性がありました。

そしてミスティークがミュタントの治療薬で人間にもどってしまうシーンは、その美人さにびっくりです。

テンポのいいアクションシーン。

迫力の映像で退屈しません。

家が浮かび上がるシーンや、ゴールデンゲートブリッジがほにゃららなシーンはとてもすごかったです。

で、キティ役の子が恐ろしく可愛いです。

ファイナルと銘打ってますが... ちゃんとスタッフロールの最後まで見てくださいね。

とにかく映像を見て楽しむ映画なので、あまりうまく感想を述べることはできませんが、思うに元気な老人が活躍(?)する映画って感じでしょうか？

由利徹の「おしゃマンベ」が懐かしいなあ。

桃さんが、また仕事を終えて命の洗濯のトルコ風呂へ。

ジョナサンの子供たちが、「わートルコ行きたい！！」とそろってトルコ風呂へ。

ジョナサンの家はめっちゃめっちゃ子沢山。小さい子から中学生ぐらいまでの子が裸で...（下は隠してますけど）その手の方に需要があるかと....

しかし、昔のトルコ風呂はすごいなあ。

本当にトラック野郎シリーズはエロ面におおらかです。

梅宮辰夫が演じるカムチャッカと桃さんの喧嘩が最高。

ジョナサンが冷凍室のバルブを開いてしまって二人が凍りついてしまうあたりがイイ味だします。

事故で死んだトラック仲間の宮城県のために都はるみが盆踊りに来て、トラック音頭を歌うんですが、その歌詞が「燃え燃え トラック野郎」って感じの内容。

そして、いつものようにフラれる桃さん。

そのまっすぐさが心に響きます。

そして、この映画のラスト。

恒例の大劇走

デコトラボロボロ。

しょんべん我慢して(もらしますが...) どこだか分からぬ道を走る桃さん。

トラック野郎たちの協力で時間内に積み荷を届けます。

桃さんのトラックの後ろに描かれた「昔桃太郎今桃次郎」がナイス。

まさに娯楽大作って言葉がぴったりで大好きです。

## ハリーポッターと炎のゴブレット

---

噂どおり、長い上映時間でしたが、アっという間でした。

画面に盛り込まれた特殊効果が並じゃありませんでした。

映像も一作目と比べるとかなりダークになっていましたが、ただ暗い画面なわけではなく、光と闇のコントラストがとても美しく、心地よいものでした。

三大魔法学校から、それぞれ代表が選ばれ魔法大会が開催されるわけですが、女性ばかりの学校がございまして、そこの代表がタマラン美人だったわけです。

ハーマイオニーも美しく、ダンスシーンとその後のシーンは今回の最高の見どころです。

大人になったハリーらしく大人っぽいネタも満載。

ハーマイオニーの「すごいのは体だけ」ってセリフは少しはあはあでした。

そして宿敵ヴォルデモートとの対決。

仲間の死。 後半は子供には少しつらい内容かもしれませんね。

しかし、今回ほどのクオリティの物を作られたら、次回作の監督はキツイと思います。

それにしても子供から大人まで守備範囲の広い映画ですね。

妖怪大戦争以来の映画館でしたが、劇場ならではのワクワク感がタマリませんでした。

おすすめです。

劇場版エウレカセブンポケットの中は虹でいっぱい。

---

ネタバレを気にせず感想を... 書こうと思ったのですが...

正直意味がわかりませんでした。

自分なりの解釈はできんではないと思いますが、それも自信がないです。

テレビ版を見てればわかるのかな？

設定とかぜんぜん違うらしいですが、これは主人公とエウレカが望む世界を選択していく話ととっていいのでしょうか。

そうなるとう主人公とエウレカ、そして主要キャラ以外の脇役が可哀相でしかたないです。

クソしてエロ本読んでニルバーシュに潰されるキャラはまだマシ。

神の鉄槌作戦で世界中に広がる津波にのまれた名もなき市民達は悲惨そのものです。

まず映画を見て思ったのが、ニルバーシュカワイイ！ もきゅ！もきゅ！

エウレカカワイイ！

そこです。うんそこがポイント。

ビバ 後半の尻餅パンチラ。

タルホも可愛かったです。

なんというかさすがプロ、腰の描き方が上手い！

六番目の少女アネモネも可愛かったです。

映像も力入ってましたよ。

戦闘シーンも追尾光線ぎゅんぎゅーん。

物語の主軸であるレントンや月光号の面々と、その話を追う第三者の視点もなかなか楽しめました。

わけがわからんといいつつも、なぜか見終わって損した気がしない一本でしたよ。

なんでだろ？

一応ハッピーエンドだからかな？

昔のエヴァ劇場版のラストの二人よりは、レントンとエウレカは幸福になるんじゃないかななんて思います。

もう一回くらい見ないとだめかな？

## スカイクロラ

---

押井守作品にしては柔らかいのでは？ そう思う映画でした。  
ネタバレ気にせず感想を書きます。

その時代には戦争は、ありません。  
しかし人は平和というものを争い無しに感じる事はできないのです。  
しかし、嘘の戦争では無理なのです。本当に人が死に、悲惨さを実感できる戦闘。  
この世界ではそれを企業が行ってます。  
そして、キルドレと呼ばれる戦闘以外では死ぬことのない子供たちがショーとしての戦争を行っているのです。

独特のなんともいえない雰囲気があります。  
押井作品馴染みの人達がキャストにいたり、犬好きなんだなあと思わせるシーンも多々。

キャラクターそして風景もおとなしめ。  
いや、繰り返される永遠の戦争という日常にたいする希薄感というか、終わらない連鎖がそうさせているんでしょう。  
同じ日々をどれだけ繰り返したのか、イビツな子供達の姿がどこか現実社会とダブります。  
キルドレでありながら、子供を産んでしまったクサナギスイト、そしてカンナミューイチの終わる事がない繰り返し。  
クールビューティといえそうですが、食べながら服を脱ぎだすシーンがなんだか印象的。  
その娘さんは可愛いです。  
あと栗山千明が演じるミツヤもいい感じ。

でも、萌えを求めるという話ではないですね。

いや本当に押井守にしては、わかりやすい内容でした。  
そしてメッセージ性も明白。

この映画の一つの売りである戦闘シーンも、よく出来てましたよ。  
ゲーム画面...と言われれば、いやショーとしての戦闘、死すら希薄な世界感に逆にマッチしていたというか心地よかったです。

一つ、好きな台詞。



明日死ぬかもしれない人が、大人になる必要ありますか？

絶対に倒せない敵、ティーチャ。

永遠に繰り返される道だが、その道は必ずしも全く同じなわけではない…。

同じような日常でも、少しずつ流れて変化していった。

いつかはティーチャを、大人の男を超える日がくる…といった意味と、所詮、人は決められたワ  
クから抜け出す事はできないのだ…といった二つの意味に僕はとれました。

シンプルながら、いろんな見方や取り方が出来る映画です。

見る年代によっても変わりますよね。

ただ、あの世界に読売新聞は少し違和感がありました。

仕方ないんだけど。

## エヴァンゲリオン新劇場版:破

---

エヴァンゲリオン新劇場版:破の感想です。  
ネタバレを気にしてませんのでご注意ください。

もう感動というか興奮がさめません。  
これぞ、見たかったエヴァというのを序では見せてくれましたが、それはテレビの延長でした。  
しかし、今回は違います。  
その違いをキャラの成長とともに見せてもらいました。  
冒頭、仮設エヴァ五号機の戦闘シーンからフルスロットル。  
マリたんは今までのエヴァキャラとは違うタイプ。  
眼鏡で巨乳という最強キャラ。タマランです。  
パラシュートで降ってきて、お約束の「めがね、めがね」をやってくれます。  
四つん這いで眼鏡を探すもんだからパンツ見えそう。

そして破と言えば、アスカ様！  
可愛い！可愛すぎる。  
まさに主演じゃないですか。  
登場シーンから大爆発。  
もうストローによる乳首隠しが秀逸なお風呂シーンや、おぱんちゅ（しまパンも）  
たまりませんって、そしてエヴァ3号機のテスト用プラグスーツ。  
エロすぎ。

そして綾波レイのほうも、かつてないぐらいに可愛いというか、表情豊かでビックリ。

ミサトさんもお風呂シーンありだよ。

エヴァの学園部分の面白い部分を詰め込みつつ、人が生活する場所としての第三新東京市の街を描写。

あと、懐かしい特撮ネタ。ミサトさんの携帯の着信音に、マットビハイクル。  
謎の円盤UFO

この映画、ラストまでに何回も異常な盛り上がりを見せます。  
使徒が出るたびにクライマックスです。  
ふと思えば、アイキャッチとかはテレビ版と同じですが、極太明朝の文字はなくなりましたね。  
そしてラスト。  
知られざるエヴァの力が大爆発です。

完全にテレビ版の内容を断ち切るそのラスト。

カヲル君の言葉が意味深です。腐的な意味でも。

意味深といえば、ゲンドウさんの事「父さん」って言ってなかったか？

あちこちで絶賛されてますが、まさに絶賛の内容。

これはエヴァを見続けてきた人に贈られた映画でもあるんだろうと思います。

もうお腹いっぱい感がいっぱいです。

少し心に残っていたアスカ様の生死も、予告編でスッキリ。

というか、どこにいくんだ？急はQです。

凄い。凄い。 次の展開がまったく読めません。

どこにこの物語、どこへ着地するのか？

楽しみでもあり、不安でもあり、とにかく今はパワー使い果たしました。

うん。

## D-WARS

---

特撮がすごいね！！

以上。

いや、その特撮も正直飽きます。

たぶん一番の見せ場である後半の町を怪獣軍団が襲うシーンで眠ってしまい、もう一回そこだけ見直したんですが、再度眠くなってしまいました。

すごくマジメに作ってるのわかるんですよ。

でも、もうどのシーンもストーリー展開も、ツッコむところしかないんですよ。

まず、本編のストーリーですが、昔、韓国に巨大なヘビがいて500年に一度、選ばれた少女のパワーを得ることで伝説の龍になることができるのです。

しかし、本来は良いヘビが龍になるんですが、龍の力を得て世界を破滅させようとする悪いヘビもいるのです。

主人公は、選ばれた少女を守る戦士で二人は恋に... でも二人とも悪いヘビのために死んで、現代のアメリカに生まれ変わるっていう、もうやりつくされたストーリー。

料理しただいでは面白くなるんだろうけど、ことごとくヘボヘボ。

別に韓国が舞台でよかったんじゃない？

日本と同じでアメリカとかあそこらへんに、民族的なアコガレがあるのな。

だから日本でもハリウッドを意識しました一みみたいな映画は、なんか空回り感というか、そういったのがあるんですよね。

CGのクオリティと、そんなガッカリ感が相殺して妙な視聴後感覚に襲われます。

「運命を変えてやるぜ」とならないあたりがお国柄なのでしょうか？

(いや、悪い意味じゃないですよ)

中二設定的なお話をお金をかけて映像化。

惜しいなあ。

## 大日本人

---

大佐藤。この映画は、彼へのインタビューで構成されている。

彼の一族は、代々「獣」とよばれる巨大生物を倒してきた一族なのだ。

日本の巨大ヒーローというと、ウルトラマンやミラーマンといった華々しい面々が並ぶが、彼ほど所帯じみたヒーローも珍しい。

結局、金や市場主義の中でヒーローが生きていくには、こういう形しかないのかもしれない。

これは、予備知識無しでみたほうがいいんでしょうね。

松本人志第一回監督作品でこれをやってしまう。

松っちゃんの好きなものがいっぱい入ってます。（ヒーロー 爺さん へんなしきたり）

映像や小物は凝ってますよ。

ただ、映画として一本通した内容でみると厳しいです。

映画館で見たら、落ち込んでたかもしれません。

ラストのアレは、ちょっと懐かしいような「逃げた」感覚のような。

趣味的にハマる人はいるかもしれないけど、正直見る人を混乱させますね。

アメリカンヒーローのうさんくささ。

映し出される町の風景。そして、ちょっとワクワクする獣。

キライじゃない部分も多いんだけど。映画としては…。

無理に国際情勢の風刺はいれなくてよかったんじゃ？

でも、どうしても松ちゃんなんで贖罪してしまいます。

## 実写版デビルマン

---

「ハッピーバースデー！！ デビルマン！！」

もうあまりにも衝撃的で、どう言っているのか...。  
悪名高き実写版デビルマンを見ましたが...

予想を超えてました！！

話は説明するまでもありませんね。  
ただ...。もうなんというか...。  
お金のかけ方がすごく、すごく不思議。  
なぜ、なぜあの名作が、こ、こんなことに...

シレーヌとの突然すぎるバトル。  
そして突然終わる。

ぬぐえないチープさが！！

ミキちゃんも変。  
そしてボブサップが出たあたりから、これ以上爆発しようがないくらい大爆発！！

助けを呼ぶ友人。  
なぜ、なぜ海に入っていく？不動明？

ジンメン戦。  
なんなんだろうこの展開。  
ごめん、どう感想を述べていいのか複雑な気分... 頭が麻痺してきたぞ。

「ススムちゃん大ショック」が入ってる！！

で、町で悪魔大暴れ... 何これ。  
片腕デビルマン？

なんなんなんなんだ！！  
世界的規模でデーモンの被害が起きてるはずなのに、なんでここまでローカルなんだ！！  
このまとめ方はヒドイの一言だなあ。

デーモン撲滅隊に対して牧村ミキの父が

「恐ろしい世の中になったもんだ」

いや、この映画の方が恐ろしい...。  
無駄に登場する豪華(?)ゲスト。

あれ、永井豪先生？

教会に行くミキと明。

悪魔のマスコットをかざす明。

「ここで明くんと結婚することが夢」と語るミキ。  
いや空気読めてないどころの話じゃないぞ。

悪魔の拠点を発見するデーモン撲滅隊。

「おまえは、こんな人間らをゆるせるのか？」

ものごっつーミニマムなところで一応問題提起。

「デーモンばんざーい」

小錦...

レポーターのあたりから「俺たちひょうきん族」かと思うぐらいひどい。  
なんだ、このデブプロレスは。

この感覚、怒り？

よくもまあここまであの原作を元にここまでのトンデモ映画を作り上げたなあ。

無理やりマトメにかかりだしたぞ。いや、マトメる気ないだろ！！！！

「日本 反撃です戦争がはじまりました」

ええええええええ！！！！

「戦争っどうなるのかなあ」

「わかんないよ」

ひiiiiiiiiiiiiiiii

なんで、なんで誰も軌道修正してやらなかったんだ！！  
もう、なぜ、なぜという気持ちでいっぱいです。

申し訳ないが2時間無駄だったと心から言える一本。  
突っ込み所しかない！！  
事前情報があってもこのガックリ感覚は超ウルトラ級だ！！  
主人公と飛鳥の演技の下手さもウルトラ級！！

いや、もうそこを直しても建て直し不可能だってば。

な、なんで僕は最後まで観たんだこれ。

あれ？なんで途中からおねえチャンバラになったんだ？

ミキちゃん、みきちゃん…。

「うわわーうわわー」

…。

とりあえず万人にわかるようにまとめました… ってか…。  
いや、まとまるはずがない。  
とにかく、とにかく ヒドイ。 ヒドすぎるとしか言えない。  
全力でお勧めしません。  
ネタとして見るにもヒドすぎる！！



## スーパーマン・リターンズ

---

もうテーマ音楽だけで泣きそう。

スーパーマンが自分捜しの旅に出ていたってというのは、今風なのかもしれません。  
もし故郷の星でたった一人の生き残りになってしまったら...なんて考えられない孤独ですよ。

そして、さらに好きだったロイスも婚約。  
子供まで生まれてたなんて！

後半のある事実がわかるまでは、ドヨンとした気持ちで、クラークがかわいそうな気持ちになります...。最後はロイスの婚約者がかわいそうになってしまいます。

それはともかく、映像がすごいですよね。  
目に当たった弾丸がつぶれるシーンや、デイリープラネッツの看板が落ちてくるシーン、スペースシャトル&旅客機のシーンとか。

イメージが崩れることなく進化したって感じですね。

日本の最近のヒーローは、幼稚園バスが襲われても助けに来ませんが、スーパーマンはハンパじゃありません。

そして、レックスルーサー。  
天才なのか、それとも...。  
一見壮大なようで、壮大じゃないような計画もたまりませんね。

見て損はないです。  
というか激しくお勧めします。

一番のお気に入りシーンは、2匹いたはずのワンちゃんが... テレビ的によかったのかな？

なつかしいBGM（女性のコーラスが入るやつ）もいい感じです。

## お姉チャンバラ THE MOVIE

---

お姉チャンバラ THE MOVIEを見ました。

正直、この映画においてチープという言葉はほめ言葉だと思います。

もしこれでキャストがアレだったら、ここまで評価はできなかつたかもしれません。

まず彩を演じている「乙黒えり」がすごい美人。

そしてビキニ。なんたってビキニ。

レイコ役の橋本愛美も美人。

胸が、胸の谷間が！！

しかし一番心に響いたのは、サキ！！！！

だってミニのセーラー服で刀を振り回すキャラなんて、もうツボをつかれすぎて！！

そうか、ボウケンジャーのイエローだったのか。

中村知世ちゃん最高ですって。うん最高。

話の内容は... まあなんというか、でもゲームの実写化っていうことを考えれば、大成功なんじゃないかなあと。

レイコの銃はどんだけ弾あねんとか、鉄球制服ゾンビとか、ツッコミ所がほとんど。

もうすばらしいとしか言いようがない。

ツッコミをいれて楽しむ映画ですな。でもアクションシーンで退屈しないのが見事。

血しぶきや程よい肉体破壊。

なかなか気持ち良く見れましたよ。

え、演技、演技はおいといて。

とにかく根性と力技を感じる一本でした。

ただ残念なのがサキちゃんのスカートがめくれなかった&たぶんブルマーってあたりでしょうか？

## 仮面ライダーTHE NEXT

---

前作があんまりにあんまりでクラクラしてたんです。

そのせいか、今回のはすごく面白く感じます。

序盤は完全に怪奇物ですよ。

日本のアングラ的な雰囲気、配役。

昔のV3の展開が頭にあるから、いろいろと意外ですが、これはこれということで...

アクションシーンもパワーアップしてますし、PG12というだけあって血の出るシーンや、裸が出てきたりします。見所(?)は多いんですが...

どーもショッカーがユルイ組織に思えてしかたがないんです。

だから、深く話に突っ込むと違和感がでてしまう。

いや、こういったユルさも計算のうちだったらすごいですが...

しかし、さすらいの一字隼人... いや、さすらいじゃなくて豪遊ですから。

それにDVDに収録されてたもうひとつのラストは... うーむ。いらぬ。

とにかく、新たな世界観を築きつつある映画版ですが、今回一番評価したいのが

「へっぽこラブストーリー」

が無かったってことでしょうか。

あとスタッフロール後のアレは... どーも外れてる気がします。

これは、たしかにロリーな趣味の人にはあれかもしれない。

ネタバレ気にせず感想を書きます。

舞台はどこにあるのか、どこの世界か、いつの時代か分からない森の中。

そこにある学校には少女たちがいた。

新入生は棺桶に入れられて、何も知らされずにこの学校にたどり着く。

年少から年長まで、リボンの色が異なっており…。

暗い、そして、ものすごくドス黒いものを感じます。

まずこの学校自体がなんだかわからない。

学校のある森は塀に囲まれており、生徒は外に出るのを禁じられています。

そして学校の収益が、秘密の劇場での年長少女たちのショー。

これによってまかなわれている。

まあ、見立てなんでしょう。

保護されつつもどこか残酷な子供たちの世界。

大人になる事の悩み、恐怖。

そして性への目覚め。

後半にそこいらを匂わせるシーンがあります。

直でこられるよりエロティックかもしれません。

もちろん芸術といわれればアレですが、僕は限りなくグレーに近い物を感じました。

キャラクターも「ほら、あなたこういう娘、好きなんでしょう？」って感じなんで、やっぱり賛否両論あるでしょうね。

雰囲気も合う合わないがあるでしょう。

セルマとアリス、ピアンカの三人は美人になるだろうなあと感じつつも、やっぱりこれは少しイケない世界なんでしょう。

## 28日後

---

28週後とセットで見ました。

ネタバレを気にしないで感想書きます。

動物愛護団体？がチンパンジーを実験に使っている施設に侵入。

それを助けようとしています。

しかし、そのチンパンジーは、ある感染症にかかっており…。

目覚める主人公。

場所は病院。

周りには誰もいない。

無人になった街。

なにがおきたのか？

それは、感染すると凶暴になるウイルスの蔓延によって、都市機能が崩壊していたのだ。

感染すると…一言で言うとゾンビみたくなる。

しかも噛まれるか、血液によって感染するので、大変だ。

感染を免れた者達が集まり、なんとか生き延びようとするのだが…。

というお話。

もちろん怖いんですよ。少しの明かりにも反応する感染者。

しかし、なぜかホラーなのに楽しい雰囲気もあるんです。

雨の表現。独特の映像エフェクト。

キレイなんです。すごく画面が

少年の感染者をバットで殴り殺したり、死体転がる街といったシーンの間に、スーパーで買い物したり、スクラップの上を乗り越えて走ったり。

それぞれ家族を亡くした登場人物たちが、家族のように見えるんですよ。

英国の美しい風景。ロードムービー？

彼等が目指すのは、保護してくれるという軍のラジオ放送が示すポイント。

しかし…

急転直下。

彼等を向かえいれた軍、彼等の狙いというのが...

最後のほうは、感染者が怖いのか主人公が怖いのか迷ってしまいます。

ショックシーンは、28週目と比べるとおとなしい気がします。

感染してもしなくても、人間は凶暴って事でしょうか？

どうやら劇場版とDVD版のラストは違うらしく、なんか清々しい気持ちになってしまったのが不思議なところ。

ヒロインのたくましが凄いです。

いろんな意味で人間への皮肉が込められた映画。

28週目まで続けてご覧になることをお勧めします。

## トランスフォーマー

---

面白い。

ドリームワークスのトランスフォーマー。

素直に面白い。

ある意味、見たかった映像がここにあるといっても過言ではないでしょう。

あまりにすごい映像が続くので、逆に慣れてしまって、途中が少し眠かったのは内緒。

今回はネット配信で見たので、画面が小さかったせいかも...

ストーリーは単純です。

凄い力を持ったキューブの取り合い。

ちょっとバタ臭いところと、オプティマスプライムの唇が残念でしたが、そんな事が気にならないくらいの映像説得力がありました。

主人公は、むこうでいうナードっぽい男性。

コメディ部分はどうも個人的に肌に合わないや....。

やっぱり吹き替え版がみたいですな。

ちゃんとオプティマスプライムは玄田さんらしいし....。

細かいところは突っ込んじゃダメ。

なんで？って思うところはあるけど、全力で無視するのがいいと思う。

ちゃん続編もいけるようになってますな。

実は昔のアニメのメガトロンとスタースクリームの妙なやりとりが好きだったんですよ。

銃に変形して、部下に撃ってもらうなんて。

次回作で復活するなら、おちゃめなメガ様を見たいです。

ネタバレはあまり気にしてません。ご注意ください。

ブレアウィッチは見てないんですが、それ風の映画だそうで...

ハンディカメラで録られた映像がものすごい臨場感を生んでいます。

日本の怪獣映画が、阪神淡路大震災の後で変化したように、この映画も911のテロがなければ、ここまでのリアリティは持たなかったでしょう。

この映画の冒頭では、どうでもいいやんっていう感じの、ちょいオシャレなニューヨークっ子たちの映像がつづきます。

登場人物の一人が、日本に栄転することになったお別れパーティーが舞台。

この映画でビデオカメラを任されたのは、ハッドと言う男なんですが、この男の空気読めない指数は尋常じゃありません。そのおかげで、マンハッタンで起きた恐怖の一部始終が記録されたのです。

アメリカの方はなんでも映像に残すイメージがありますが、そういった文化性の違いもあるんでしょうね。

大体の人間関係を見る側が把握できた時に、それがおきます。

ある意味いるはずのない怪獣に、リアリティをもたせるには、徹底的にその存在を隠す。想像ほど大きな調味料はありません。

911の時に見たニュース映像とダブるシーンが多々あります。

響く重低音な足音と、瓦礫の山。

僕は震災を思い出しました。

日本の怪獣映画が、怪獣主体なのに対し、この映画では、逃げる人々が主人公。

等身大のカメラは、自分がその中にいる錯覚をもたらします。

たぶん制作者は、日本の怪獣映画も好きなんだろうなー。

ラストで流れる音楽は、どこかゴジラを思い出させます。



で、肝心の怪獣ですが、あまり見た目のキャラクター性はないです。  
というか、ゴジラ映画の中で出てきたら、カマキラスやクモンガ以上に地味です。  
しかし、レギオンのように、小さい犬ぐらいの小生物を大量に生みます。  
それに噛まれると... いや、あまり説明はないのですが、ちょいゾンビテイストもあるみたいですね。

まあセントラルパークで発見されたカメラに写ってた映像という事なので、撮影者の悲劇的末路は決定的なのですが、後味は、あまり良くないんだけども、心に引っかかってしまうことはなかったように思います。

説明不足といえそうですが、怪獣映画やそこらに慣れてる人は十分に脳内補足できる範囲でしょう。

ちょい微妙な部分を含めて、僕は楽しめました。

ただし家庭で見るのはどうかな？ やっぱり映画館での視聴をおすすめします。

なんかスタッフロールの後に声入ってませんでした？

続編が決定したそうですが逆に蛇足になるのではと勝手に思います。

良い意味で裏切ってほしいですね。

シネリーヴル梅田で土曜祝日は8時からの特別公開があって、それに入りました。  
封切りから期間がたっているのに、すごい入場者数。  
で、感想ですが...。  
まず初心者お断りの映画です。  
はじめての方は予備知識を頭に入れて見られたほうが楽しめると思います。  
で、昔のエヴァを見てた者にとっては、デジャヴのような感じでした。  
たしかに話の流れはテレビどおり、ただ、中身は少し違います。  
テレビと同じじゃんっていう人は、あまりこだわらない方なのかもしれません。  
細部までこだわった画面精度。キャラの表情。そして物語が「破」に進む小さな変化。  
CGで再現された第三新東京市は必見です。

あとはミサトさんの魅力再確認ってところか...。  
あんな人と同居できたら、ほんとに下着かぶるよ。  
綾波比率は少し少なかった気がします。  
話はクライマックスのヤシマ作戦までを描いているのですが、こりゃ拍手おきるやって感じですよ。ここまでは...  
次作からは旧作ファンにとっても未知の世界です。正直ここから先が不安です。  
最後にカヲル君が出てくるあたりで破は始まっているのかもしれません。  
新キャラ?が激しく気になります。

## アバター

---

いまさらなのですがね。  
みました。

とんでもなくすごいわ...。  
地球を遠く離れたパンドラという星が舞台。

さすがジェームズ・キャメロン。エイリアンとか見てた世代にはニヤけるシーン満載です。  
なによりも映像の説得力。

リアルなんだけども、そこに描きだされてるのは見たこともない生物たちなわけです。、  
でも驚くほどにそれらがリアルに見え、そしてナヴィに感情移入しちゃいます。  
そして最初は「うう」って思ったヒロインが可愛く見えてくるから不思議。  
目が大きいし、巨大女性属性の人にはいいのかも。

利益を優先する会社、そして某大国と他の古くからの民族。  
その対立を相手部族側から見た展開なので、そりゃアカデミー賞は逃すわけだと...。  
ハートロッカーはまだ見てないけど、アメリカからすれば面白くないわな。

ナヴィ側につく人たち、ヘリのお姉さんなんかは、同胞を裏切ることには抵抗はなかったのかな？

アバターとして生き、彼らと意思を共有した主人公はわからんではないけど。  
これ、ネットゲームの世界の中のキャラとプレイしてる自分という図式にしたら、また印象が変わるかもしれません。

そして後半の展開がもう燃える燃える。

ドラゴン好きにも、ロボ好きにもすばらしく感じる映像がてんこもりです。  
長い上映時間もアツという間ですよ。

そしてラストの一騎打ち。まんまロボットアニメだ...。  
もう好きな要素だらけです。  
激しくオススメな一本ですよ。

## サマーウォーズ

---

ああ、なつき先輩可愛いなあ…。

テレビ放送版は、テレビ放送用に特別に監督がカット、編集したバージョンらしいです。

なかなか重要なシーンがカットされたらしく、ネット上では残念だという声があがってましたが、テレビ版から初めてみる僕にとっては、無問題でした。

逆に「オリジナル版」も見てみようなんて気になりますね。

これが狙いだったら凄い戦略です。

大おばあさんの誕生日に、田舎に帰省する時に臨時の彼氏役を頼まれる主人公。

しかし、世界を結び人々の生活に結び付いた「OZ」という仮想世界のハッキングAIの起こした騒動により、とんでもない事件に巻き込まれてゆく…。

そんな内容なわけですが、いろんな偶然(または必然)が重なり、夏の一大戦争へと話が発展します。

うちのカミさんの家は、親戚同士仲良くて、たくさんの人が集まってくるのですが、ちょうどこんな感じです。

いや、ここまで賑やかではないですけども…。

田舎の生活って本当に人同士の繋がりやイベントを大事にしますよね。

リアルな人の繋がり、そしてネットの中の人の繋がり。

今時の主人公の家族と、田舎の大家族。

いろんな対比がありますよね。

あと、おばあちゃん。

凄い人だは…。リアルな血の通った人脈はネットに負けてません。

それぞれのキャラがいい味出してます。

基本的に悪人のいない話ですから…。

これは女性向け同人誌が1ジャンルもうけるわけですよ。

(映画見る前から諸事情で同人誌はいろいろチェックしてたのですよ。いや、やおい系ばかりですが…。)

そして後半の加速する展開が最高ですよ。

ラストバトルは、団結する一家の姿に胸が熱くなります。

しかし、それぞれがOZに接続してる端末が凄いですよね。

携帯にDSに... 年配の人がDSなのはすごくリアリティあります。

電車の中で老夫婦と一緒にDSでテトリスを始めた光景を思い出しました。

なつき先輩はアバターも可愛いですなー。

そしてラストはハッピーエンド。うらやましいかぎりです。いろんな意味でね。

まあこの主人公ならば許せるかな。

ああ！なつき先輩！

## 宇宙戦艦ヤマト 復活篇

---

ヤマト復活編を見ました。  
ネタバレ気にせずいきますよ。

最初のナレーションが懐かしい... けど、長い!!!

古代の現在乗ってる船が「貨物船ゆき」  
真田さんは歳とっても目がかわらんなあ。

移動するブラックホール。  
やがてそれにのまれて地球は消滅する。  
人類は他の惑星に移民することになった。

その第一次移民団の指揮をとっていたのが雪。  
しかし謎の敵に襲われ一次船団と二次船団がほぼ壊滅してしまう。

雪は行方不明に... 服が脱げちゃうのは伝統だなー。

そして第三次船団の護衛をするために、復活したヤマトが発進する。

ヤマトの発進シーンはカッコいい!! いや、マジでカッコいいよ!!

ヤマトのメインは若い新世代キャラ。  
うーむ、双子あり、跳ね返りあり  
なのに新キャラはイマイチ頭にのこらないなーって思ってたら... 中に可愛い娘が!!  
マホちゃん!! 可愛い!!! こんな男所帯にこんな娘がいれば大変なことになるのでは...!!  
!

古代の娘、みゆきも可愛いけどなあ。  
おお、医務班にいるのは女医さんだ!! いや、彼女はちょい顔が怖いなあ。

新ヤマトは波動砲6連発撃てるのか!!  
もっとも勤めたくない職場。第三艦橋は今回は電算室です。

佐渡先生、まったく変わってないなー。  
アナライザーも（当然か）

ヤマトを襲ったのは星間連合。

その決議が地球からの移民は侵略行為という決議をだしたのだ。

あれ？ヤマトだったのに…。 いつの間に戦争ものになってるんだろ？

ああ、石原慎太郎が原案の段階で、「こ、これはマズイ」と思ってたのだ。

序盤から「虐殺」という言葉が多く出てくるあたり、この話は現実の国の話に置き換えてもアレなんじゃないかなあと思ったり思わなかったり。

いや、いかん、ヤマトは、きれいな心できれいな心で見なくちゃ。

ヤマトの先端にはミサイルを満載した小型艇が…。

ううう、もうこのあとの展開がわかりますよね。あたりまえのように突撃。

石原慎太郎…。

いかんピュアだピュアな心だ。

だから、敵だってほらピュアに自らの計画の弱点をべらべらと話してくれるじゃん。

なんでだまってりゃわからないのに。

地球救われたじゃん。

それとも、これは罠なのかな？

いや、あちこちで酷い酷いと言われてましたから覚悟してましたけど、思ったよりよかったです。

映像的にはなかなか素敵でした。

ストーリーに目をつぶれば…。

最初は違和感あった人物キャラもなれました。マホちゃん可愛かったし。

そして最後に驚愕のテロップが…。

「第一部 完」

うおおおおおおおおおお

## パンズラビリンス

---

ネタばれ気にせず感想です。

昔の内戦終了時のスペイン。

戦いは終了したが、山の中にはまだ反抗を続けるレジスタンスの残党が残っていた。

そんな中、父親を戦争で亡くした少女オフエリアは、母の再婚相手ヴィダル大尉の元に弟をみごもった母と共に呼び寄せられていた。

ヴィダル大尉は、山に潜むレジスタンスを掃討する任務についていて、さながら砦の主といったところ。

冷酷で残忍な男。

悲惨な現実から逃れるように、絵本や童話の世界に夢をみるオフエリア。

彼女は、妖精と出会い森の迷宮でパン（ヤギのような形の神）と出会う。

なんでもオフエリアは、地下にある痛みも苦しみもない国の姫だったというのだ。

地下の王国に再び帰るために、彼女は三つの試練を受けることになる。

パッケージだけみれば、ファンタジックなお話かと思いますが、相当にエグいです。

拷問や戦争等に満ちた現実も、その逃げ道であるはずの夢の世界も、どちらも恐怖に満ちています。

この映画はPG12指定なのですよ。

兎狩りをしてたオッチャンがレジスタンスの疑いをかけられ、目の前で息子（といっても成人ですが）の鼻をワインの瓶でめった打ちにされ、あげくはオッチャンと共に殺されてしまうシーンは、うううって感じです。

いや、戦争映画ではよくあるんですけどね、こういったシーン。

ひどい現実から逃げた先のファンタジーの世界もとてもダークです。

虫だらけの木の下に空いた穴の中には、デカイ蛙がいて... ゲロリンチョ。

第2の試練で出てくる、子供を殺して食べる（部屋に描かれた壁画によると... いや、殺してるだけ？）「妖怪手の目」みたいな化け物もエグすぎです。

妖精は頭から食べられてましたけど。

エグいのはエグいんだけど、画面の作りこみは丁寧で、たまにハッとした美しさを感じる事もあ



るのですよ。

森の中とか、廃墟とか、暗い画面の中にも明暗があって...

廃墟の石像のモールドも不気味だけど美しいです。

大人になっていく少女の不安や迷いをあらわした幻想世界。

辛すぎる現実から逃れて、そこに逃げ場を求める少女。

その世界も大人には見えません。

それが本物なのか？

冒頭からわかるように、バッドエンドへと向かうこの映画。

最後のくだりを少女のはかない希望ととるか、それとも一つの真実としてとるかで印象が少し変わります。

いや、どちらにしても悲しさに変わりはないのですが、せめて現実を超えた世界では、少女のしあわせを祈りたくなってしまいます。

村上龍原作の小説を映画化した作品。

ネタバレ気にしてません。

すごいでえすわコレ。

延々と続く日常世界。その中の歯車が少し狂う。

そこから事がどんどんと大きくなって…。

若者グループの一人が、おばさんを殺害してしまう。

みどり会の一員だった。

若者グループVSおばさんグループみどり会。

最初は刃物VS刃物。

そのミリタリーバランスを崩すのは、「金物屋の店主：原田芳雄」

何者でしょうか？

復讐合戦にトカレフ登場。

快樂殺人と復讐の限りなく区別がつかない殺し合いが続きます。

おばさん側がくりだしたのは「ロケット弾」

モラルとかそんなものをおいとして、淡々と続く殺し合い。

でも若者側もおばさん側もなんか話が進むごとにイキイキしてくるんですよ。

ちょい役で出てるミッキー・カーチス がいい味だしてます。

というか濃い人、一癖二癖あるひとばかり出ってます。

ただ松田龍平はやっぱりスゴいわ…。

イカれた世界観、でもこの世界はすごく僕らの日常に似てる気もするのですよ。

どこかで噴火する糸口を探してるのかもしれませんが。

最後は核爆弾…。 予告でネタバレしてるのね。

まあ、そんなに深く考えずに観るのがいいと思います。

しかし津田寛治は、どこにでも出てるのなあ。

## 劇場版ヘタリア

---

ネタバレ気にせずに感想です。

劇場に昨日はあったはずのヘタリアグッズガチャガチャが、全て売切れて撤去されていました。

そんな梅田ブルク7は、銀魂の時をこえて女子ばかり！  
予想以上です。

そして、劇場販売グッズの購買合戦。

うわパワフルだわ！

正直、銀魂の時は騒がしいやらなんやらでしたが、今回は...

ううむ、ハイレベルの腐女子なお嬢様方です。  
マナーばっちりです。画面に向かって手を振る女子はいません。（銀魂のときは...）

そして本編。

約1時間30分、新作映像は1時間ぐらい？。

宇宙からやってきた侵略者、ピクト星人。  
彼らに襲われた人は、のっぺらになってしまう。

各国の兵器も、街も真っ白にされて使用不能に...

各国は手に手を取り合って戦いますが....

あれ？僕はこの内容をどこかで見た事があるような...。  
ああ、マイメロでこんな話があったなあ...。  
真っ白になる絵もそっくりかも。

画面的にも、劇場版というには設定上仕方ないのですが、白いです。

筋書きはある意味オマケで、まずキャラの魅力ありきな内容です。

だからといって楽しくなかったわけではなくて、いろんな意味で武力を否定された彼らが共通の驚異に立ち向かう…。

そこらへんがポイントなのかもしれません。

いや、イタリアは別として…。

あとスイス。リヒテンちゃん可愛いです。

あとオッパイ成分もなかなかで、ウクライナさんとかアメリカのバニーガールとか

そして活躍したようではなかったシーランド君。

いや、目立っていましたよ。

いろいろと某国のクレームで問題になった作品ですが、まったく問題にならないですよ。

可愛いものです。

逆に平和的ですよ。

なので、まずファンであれば見て損はない内容だと思いますよ。（新作部分少ないけど。これ1000円ぐらいにしてくれても良かったんじゃない？）

逆に初めての人は抵抗があるかもしれません。

既存ネタに通じる部分もあるので、予習はしておいたほうがいいかもしれません。

新キャラは、ううむ他キャラと区別が…。

そして、例によって特典目当てに買った前売り券がまだまだのこってたりするのですね。

## ターミネーター4

---

ネタバレ気にせずに感想です。

ながら見たので、細かい部分はアレですが、4はヒーロー物ですね。

なんというか、仮面ライダーです。

映像的には、そうとう細かいです。

少しダークな色調。

戦争映画っぽい印象です。

ロボットが反乱し、逆に人間の最大の敵になってしまうというのは、ベタといえばベタなのですが、タイムパラドックス物的には、そんなに大きな仕掛けがあるわけではありません。

スカイネットの本部を目指す男が半ロボというかアンドロイドだというのは、序盤でなんとなくわかりますし、大きな驚きはないのですが、逆ターミネーターなのかなと考えるとおもしろいです。

自分の体を改造され、それでもなお人として、人類のために戦おうとする姿、これは、仮面ライダーなのでは？

巨大ターミネーターやバイク型ターミネーター、A10との空中戦、など映像的な見所はたくさんです。

当時の第一作目では考えられなかった映像の進化を見る事ができます。

コナーと、その父であるカイルが顔を合わせるシーンも、見ているほうはジーンときますし、ラストの〇〇〇ちゃんがCGで登場するシーン（もちろん若いころの）といい、工場が舞台で溶けた鉄がドバツとコナーを追うターミネーターにかかるあたり、過去作品へのオマージュを感じます。

当時日本のアニメもターミネーターの影響をたくさんうけましたが、逆にいえばキャシャーンの影響をうけてないともいえんではない世界観。

だから日本人にはすんなり飲み込める映画なのではないでしょうか？

一日三回の上映だったり、前売り券がなかったり、パンフレットが販売されなかったりと、いろんな意味で力を入れてるのか？という劇場版の遊戯王を見てきました。

上映時間は49分ほどなので、目立って大きなスケールの話が展開するわけではありません。ロンブーの淳演じる敵が、スターダストドラゴンを奪い、過去のペガサス殺害を企てる話。メインは、やはりデュエルですが、街の倒壊シーンやディーホイールで走るシーンなど、3Dならではの迫力あるシーンもたくさんありました。

昔見た3Dアニメはセル画が平面で立体になってた感じでしたが、この映画では、顔と身体や、位置によって細かくレイヤーが別れていて、違和感なく立体に見えました。

その技術もさることながら、まず一番のメインは美しい作画。

三人の主人公が登場する豪華さ、遊戯と十代に敬語を使う遊星。

劇場にきていた腐女子的には、最後に三人が手を合わせる時の指がキレイすぎてヤバかったらしいです。

腐女子的要素は大満足。

男性向きにはといたしますと、ブラックマジシャンガールでしょうか？

ウハウハ3Dです。可愛いすぎます。

激しくオススメできる遊戯王なのですが、残念なポイントは、時間が短いせいで声優さんが早口な事と、十六夜アキちゃんのオッパイが3Dでボイーンとしたりする、たゆんたゆんなシーンがなか... ボコ！

ファンサービス満載で、ペガサスがいい味だしてた一本。

「悪い予感がしまーす。」

アッキーナも可愛かったしオススメでいす☆

## カーズ

---

テレビでピクサーのCG映画カーズを見ました。

昔、とあるアニメ雑誌の投稿で、「おばあちゃんがルパン三世カリオストロの城を見て実写と思ひ、これはどこでロケしたんだい？って聞かれました」っていうのがありました。

(余談ですが、昔のアニメ投稿欄は今で考えられないような物がありました。今でも覚えているのが、あるデザイン会社の社員の投稿で、ルパン三世の最終回に出てきたラムダっていうロボットはウチのデザインした物の盗作だっていう話。いや真偽は明らかではありませんがね。ラビュタにも出てきた、あのロボットです)

それぐらいキレイな映画でしたよ。

トイ・ストーリーの監督が日本のファイナルファンタジー劇場版を見て鼻で笑ったという話がありますが、CGをどれだけ実写に近づけても実写以上の物はできないと思うのです。

このカーズの主人公たちは、アニメ的なキャラ。

一見リアル指向ではないように思いますが、ネオンのライティングが複雑に映りこむシーンなどにクリエイターの技術的な主張が見えます。

途中からみてもわかる王道ストーリーに、押し付けがましくなく詰め込まれた最新技術が逆に凄さを感じさせます。

運搬トレーラーから、地図から消えた田舎町に落ちことされた売れっ子レーシングカーが主人公。

早くレース会場に向かわなくてはいけないのだが...

車だけど人情話。

全編 通してのレースゲームのような爽快感。

子供から大人まで激しくオススメの一本です。

## 劇場版 マクロスF 虚空歌姫～イツワリノウタヒメ～

---

みました。

ネタバレ気にせずに感想です。

最初テレビ版の再編集と聞いて、えーっと思ってましたが、ほとんど新作です。

なんでも70%新作カットらしいです。

正直見終わって興奮ぎみです。

ここまでファンに対するニーズというか、サービスに答えられるなんて！

シェリルが萌エロカワイイ！！

これでもかっ！これでもか！って感じです。

ライブが！おっぱいが！お尻が！お尻！

たまらんですよ。

一応テレビの筋なんですが、いろんな部分が違いますよ。

シェリルのスパイ疑惑を軸にストーリーは燃える展開に！

一度テレビで見た人も楽しめ、初めての人も楽しめる...そんな映画です。

滅多にしないはずのサービスが満載。

なんだかグレイスがいい人っぽく思えます。

乳首券も気前よく発動していただきまして... グレイスさん立ってるだけでいちいちエロいですわ。

ブレラもいきなり登場してます。

戦闘シーンも見せ場たっぷりだわ。

まだ劇場版前編なのに見せ場がすごいです。ここまでサービスしちゃっていいのかってぐらい。

あとオズマ隊長ノリノリ。「突撃ラブハート！！！！」ですもん。

ランカの見せ場も多いんだけど... ううう涙の下積みがスゴイ。

可愛い！！スターライト納豆ですぜ！！

秋葉みたいな一な町もちゃんとあるのね！！！！

ランカファンにはここが最大の見せ場？なんですかね。

とりあえず後編に期待ですか？

燃え所凝縮って感じの劇場版ですが、スタッフロールの後はちゃんと完結編の予告がありますよん。

もう期待が高まりすぎて大変。



あれ？松浦ナナセちゃんは？

追伸：劇場にあったシェリルの等身大たて看板、撮影したかったんですが、自重しましたえへへ

。

## フレフレ少女

---

テレビで見ました。

いや、面白かったですよ。

ネタバレ気にせず感想です。

ガッキー可愛かったです。

野球部の選手に憧れたガッキーが、マネージャーになろうとするも人は満杯。

しかたなく応援団に入るガッキー。

応援団長にされてしまいます。

しかし応援団初仕事の練習試合では、野球部の足を引っ張ってしまい負けてしまいます。

憧れの部員はライバル校に転校。(あれ？転校後一年は試合に出れないんじゃないかな？)

話は超がつくほどストレート。

応援団のOBに合宿につれていかれ、そこでしごかれたり、たまたま近くで合宿していたライバル校の練習場で、転校した憧れの人にフラれたり

嵐のような、いやというかイマイチ説得力にけるパワーで応援団としての力をつけていきます。

いいんです説得力は、だってアイドル映画だから。

そのパワーアップぶりを見せつける場面には笑いました。

将棋や卓球部を応援の力で優勝させ、そして野球部も。

協力を嫌がってた吹奏楽部とチア部も、ガッキーの頼みをきいて応援に。

チアガールは良いです。うん良い。

応援団OBからもらった学ランを着たガッキーの怒涛の進撃はすごかった。

深く何かが残る内容ではないですし、ツッコミ所もおおいですが、さらりと流すには悪くない出来だったと思います。

さらりとしすぎて深く感情移入できない点もありますが...

難点をいえば、ガッキーのお風呂シーンがイマイチサービス低めだった事。

ラストに学ランからセーラー服に戻ったガッキーが可愛かったのも全てオッケーなんじゃない

でしょうか？

ぜひ次は応援団ではなく、チアガールのガッキーを見た...いえなんでもありません。

## シャドー

---

テレビで見ました。

アメコミの実写版です。

昔見てたような気もするんですが...

ジョン・ローンがカッコイイ！

かつては悪人だった主人公が、チベットの高僧により正義のヒーローに。

眼力で人をあやつる能力を持つ主人公。

その名前のとおり影に隠れることができる。

チベットから運ばてきたチングス・ハーンの棺に入っていたのは、シャドーと同じく人を操る事ができるチングス・ハーンの子孫、ジョン・ローン演じる悪者。

この棺から出て来るシーンがドリフのコントのよう。

かつて同じ師匠のもとで学んだ弟子が正義と悪に別れて戦う。

よくあるパターンです。

安心して見れますな。

シャドーには彼を助ける部下がたくさんいたりして、けっこうカッコイイわけですが...

肝心の主人公がおマヌケ。

影に隠れてもバレバレだったり敵の罠に落ちて水責めにあったり。

いや、深くつつこんじゃいけません。

カッコ良くなる要素はいっぱいなんだけども...

いや、どこかに残るおマヌケ要素が真の魅力なのかもしれません。

ラストの鏡の部屋での対決は、ブルースリー映画のオマージュだわね。

1番最後のオチは笑えました。

軽い気持ちで見るのがいいんでないかと....

そんな一本でした。

## ハリー・ポッターと謎のプリンス

---

ネタバレ気にせず感想です。

上映時間は3時間近く。

冒頭は人間界にも魔の影響が及んだ事をあらわすシーンでしたが...

前作に続きまた展開はのんびりです。

映像にお金がかかっているので、激しい展開はなくても苦痛はありませんが、ここまで世界が大変な時に、ハリーたちは恋愛に大忙しです。

そんな中、ハリーが手にした誰かの教科書。

そこに書かれた「プリンス」とは誰なんでしょうか？

結構ネットで見たらタイトルでネタバレしてるところが多かったですね。

まず特筆すべきなのはハーマイオニーの成長。

いやハーマイオニーだけじゃなくて、みんな成長してるんだけど、パーティードレスとかになると胸がね。

うん。

不思議ちゃんのルーナが可愛いよね。

ロンは相変わらず。でも今回はモテモテです。

後にヴォルデモードと呼ばれる幼き日の彼、トムリドル。

日本語吹き替え版では福山潤さんが声をあてておられました。

カッコいいです。

カッコいいといえばマルフォイも...

父親が闇の手先だったために悪い友人が増えましたね。

そして今回の主役...スネイプ先生。

相変わらずシブイです。

ううむ。

自分の教科書に半純血のプリンスとか書いちゃうあたりがあれですが...

どうも直でプリンス=王族といった意味ではないらしい。

ダンブルドア校長にとっては受難の一本なんじゃないでしょうか？

いろいろと大変なことになっているけど、どうもノンビリした雰囲気は今作。

派手だったのは前半の橋が落ちるシーンと後半のガラスパリーンじゃないでしょうか？

ロンの家やハグリットの小屋が燃えたりといろいろ大変なのですが、どうもおとなしい印象です。  
不死鳥の騎士団と闇の手先の対決も、ちょっと燃えが少ない…。

んんん 微妙です。

のこり後2作。クライマックスは始まるの？

悪くはないけども、ハリーポッターの前作などをみてキャラに思い入れのある方にオススメします。

## アイアンマン

---

ネタバレ気にせず感想です。

といっても、ネタバレというのは少ないストレートなストーリーなのですが...

武器商人の主人公は、イケメンの女好き。

そして天才的な技術力をもった男性。

ある日主人公が開発した新型ミサイルの売り込みに、紛争地帯へ向かうが、悪の武装組織に捕まってしまう。

そこで彼が見た物は、主人公の会社が販売していた兵器の山だった。

自分の売った武器が、悪を倒すためではなく悪の武装集団に使われていたのだった。

武装集団たちに、新型ミサイルを作れと言われる主人公。

しかし彼が作ったのは、ミサイルではなく新型のエネルギー発生装置とパワードスーツだった。

凄い力と命を救ってくれた友の助けにより武装集団のアジトから脱出する主人公。

彼は正義に目覚め、武器の販売をとりやめる事を決意。

パワードスーツを改良し、平和のために戦うのだ。

...と、ストーリーは単純明解。

しかしその分、凄い映像を堪能できます。

アメコミのヒーローは、ほとんどがマイナスの要素を持っています。

アイアンマンも例外なく、自分の販売した兵器の爆風により、鉄の破片が身体に入り、それが心臓に到達するのを防ぐために機械を胸に埋め込んでいます。

そして世界の兵器を無くすためにアイアンマンスーツという最強の兵器を作ってしまうあたり皮肉というか味がありますね。

見所は、アクションシーンや空中戦もそうですが、個人的にはスーツを着るシーンがすばらしいと思います。

各製品の細かい動き、パワードスーツといった設定に反応してしまいます。

ストーリーのほうも、途中で読めてしまうのですが、期待を裏切らないですよ。

アイアンマンVSプロトタイプから改良された悪のアイアンマン。

実際の世の中は、正義と悪というのはわかりにくいですが、この映画の中では問答無用です。

ストレートです。

スタッフロール前の映像がめちゃめちゃカッコイイ！

そして、長いスタッフロールを終えると、アメコミファンならニヤリとする(する?)であろう人が、アイアンマンの前にあらわれます。

スカッとしたい時にオススメの一本です。



みました。

ネタバレ気にせずに感想を

パトレイバーの劇場版にゾンビを足してマニア度を薄くし、すたいりっしゅアクションとやらをプラスした出来。

映像のクオリティは凄いのですが、やはり頭の中に出て来る言葉は「ゲームのムービー部分画面」

アップはすごいですよ。

表情の変化とかアレコレ。

ただ大勢の人間が出て来るシーンでは、やはり人の身体の形が気になりました。

それに凄い映像が連続しすぎて麻痺してくるってのもありますかね。

個人的にはヒトミちゃんが可愛かったり、ブリちゃんの改造前がイケメンだったり…。

3Dキャラフェチとしては、なかなか楽しめたのですが、やはり萌えという点ではデッドオアアライブに負けます。(へんなチャーリーズエンジェルもどき作らないでフルCG映画にしときゃよかったのに)

いや、この映画はアップルシードなんだけど、できるだけマニアックなストーリーを排除して、恋愛要素を前にだしましょう、つまりウケを狙いましょうって事なんでしょうな。

立ち位置がとても微妙ですね。原作ファンはどう感じたんでしょうか？

ううむ…。微妙。

## ボルケーノ

---

映画ボルケーノをみました。

たしか過去に実際に火山が噴火して放送が見送られたんですよね。

今回も映画放送前に海岸の火山が噴火したってニュースが...

トミーリー・ジョーンズが主演です。

ロサンゼルスのだ真ん中で噴火が起きるというすごい話。

なんというか元気だったころのアメリカ映画って感じで、パワーがありましたよ。

人間VSマグマ。

怪獣映画ともかさなる感じですね。

仕事と家庭、父と娘、そしてハラハラさせる展開が次から次へと...

なかなか見ちゃいますねー。

CGはまだそんなに使用されてない時代だったと思います。

合成がメインですねー。

でも画面の臨場感というか、迫力は凄いですよ。

噴火後は町がパニックになり、略奪をしたりする市民が現れます。

そういった人達と、自己犠牲のもと他人を救おうとする人の差が描かれていて面白いです。

最後まであきらめずに自然災害に立ち向かう主人公。

溶岩に水かけて水蒸気爆発しないかとか、細かい事考えちゃだめ。

頭の中を空っぽにして、わーきゃー言いながら見るのがいいんじゃないでしょうか？

最後の最後まで。

ポジティブはすべてを可能にするのです。ってああ当時は今より景気良かったんだなー。

## タイタンの戦い（2010）

---

さて、タイタンの戦いといえば、僕が小学生の時に親に連れていかれた映画です。

「怖い！！怖い！！」と泣いていた僕ですが、意を決して劇場へ。

どっぷり世界観にはまりましたよ。

何がすごって人形アニメーション。

ペガサスやプーボ、クラーケンの動き。

そして何よりゴーゴン三姉妹の一人、メデューサの恐ろしいこと恐ろしいこと。

顔が本当に怖かった。

さて、そのタイタンの戦いがリメイクされました。

すごい映像です。

本当にすごい、そしてすごすぎてピンとこないのです。

昔の映画は特撮シーンがある意味他のシーンより浮いていて、メリハリがあったものです。

しかし、このタイタンの戦いは全部すごいのでピンとこないのです。

そしてなにより前作との違いを感じたのは、「神VS人間の戦い」を主軸にしているところ。

なんかファンタジック色が薄いのです。

ファンタジックといえば、聖闘士星矢へのリスペクトで神々がピカピカの鎧を着ています。

ここらへんはファンタジックというか、なんというかピッカピカでギャル受けがよさそうです。

で、本編ですが前作は、お姫様を助けるという主軸がありましたし、恋愛的にいってもわかりやすかったのですが、今回の相手は女神ですよ。

主人公ペルセウスを見守ってきた女神。

紅一点です。いや本来はアンドロメダ王女がヒロインなのでしょうが、目立つのは少しです。

なんというか、恋愛要素の匂わせ方といい戦士たちの友情の見せ方といい、アメリカ映画的なように感じました。

吹き替え、大塚芳忠さんの隊長がかっこよすぎ！！

最初は嫌われつつも神の血を継いだ主人公は、そのリーダーシップと一緒に戦う戦士をまとめてメデューサに挑みます。

前作では盾に映った相手を見ながらの攻撃でしたが、今回は流石アニメ好きな監督、「相手の気配を感じて戦う」です。

なんか剣の訓練のシーンといい、アジア系のソードアクションっぽいのに憧れているんでしょうかね。

なかなかメデューサと戦うまでの展開は見せるものがあります。

でもメデューサがキレイすぎるんだなあー。

あまりインパクトがないのです。

そしてかつてのペルセウスの母の旦那と戦い。

だいぶ事情は複雑です。

愛する女神はそこで倒れます。

で、この映画の一番のクライマックス、クラークンとの戦いになります。

すごいです。勝てる気しませんもの。

怪獣好きにもうれしいというか、でっかい化け物大好きです☆

で、姫を助けて...よく助かったなあ。

ラストは姫と... と思ってたら、自分を育ててくれた家族の沈んだ場所へ。

今回、おもしろいなと思ったのが、神さまの人間くささです。

けっこうゼウスは息子のことを気にかけて助けます。

そこに父親として人間くささを感じます。

ギリシャ神話って驚くほど人間くさいですし、エッチな部分もありますよね。

(たしか美の女神アフロディーテは、切り落とされた性器の泡から生まれたということだったと思います)

いろんなタイプの父が登場する本作、

いってみればゼウスとハデスの代理戦争のような感じなのですが、最初のペルセウス育ての親が不憫でなりません。

ストーリーは複雑ではありませんし、ひとつおりの燃える展開は用意されています。

映像も素晴らしいです。(ロケした場所もすごそう)

なのでお勧めはお勧めなのですが、興味をもたれたらぜひ旧作もごらんください。

ワクワクしますから。

## ジェヴォーダンの獣

---

現実にあったといわれるジェヴォーダンの獣事件。  
それを元にした映画です。

1764年 フランス ジェヴォーダン地方に現れた獣。  
その恐ろしい獣は、女性や子供ばかりを襲った。

冒頭の女性が襲われるシーンがすごいです。  
いろんな意味で衝撃的です。

獣を倒す...いや、調査するためにやってきた博物学者の主人公（フロンサック）と新大陸の住民の生き残りマニ。

...あれ、いつの間にか格闘映画に...

そして、獣に懸賞を賭けた大獣狩りが。  
獣の被害者たちが言う獣は、巨大なものらしいです。

独特の雰囲気な映画なのですが、なかでも娼館のシーンが怪しいわぁ。

で、女性の胸から雪山にシーンが変わる場面。  
この映画、場面転換が秀逸だわ。

獣が出てから三度目の冬、雪山で子どもが行方不明になる。  
そして、その子供の話によると...  
どうやら獣は何者かに操られているらしい。

ジェヴォーダンを離れるように命令された主人公だけど、最後の戦いに...。  
主人公とヒロインの恋の行方と共にストーリーも急展開です。

おおーい、主人公の後を...。  
えええええええええ！！ 何コレ？  
ここまでさりげなく登場する獣...。  
志村！！ 後ろ！！！！！！状態。

そして燃えるわぁ。獣とのバトル。

でも強い... 強いや。獣。

ただのモンスターパニック物かと思えば...

あまりにも意外な展開の連続です。

いろいろと映像的にもアクション的にも見所が多い映画です。

ジャラジャラ剣（蛇腹剣）も出てきます。

どこかアジアのアクション映画や、時代劇を思わせる雰囲気、とても楽しめましたよ☆

結局一番怖いのは... やっぱり人間なんでしょうね。

## サバイバルオブザデッド

---

面白い！！！！

ただのゾンビ物じゃなく、ストーリーというか人間ドラマがしっかりしてますよ。

そしてゾンビ物のキモの肉体破壊シーン。食事シーンも文句なしです。！！

ゾンビの殺害シーンもバラエティにとんでます。

首だけゾンビや泳ぐゾンビ。

すごいや。

死者が生き返りはじめてからの話。

狭い島での家と家との争い。

死んで生き返った者を始末していく男。

死人と共存しようとする男。

どうやって死者と共存するかというと、ゾンビに人間以外の物を食べさせようという試み。

そんなに長い映画じゃないのですが、キモを押さえつつも皮肉のこもったストーリーです。人間って死んでも分かり合えないのね。

グロい描写もありますが、いろんなメッセージ性を含みつつも、説教くさくない内容。

監督はゾンビ本家ジョージ・A・ロメロ。

70歳こえてるって！！！！ でもすごいパワーですね。

なんともいえない感覚に襲われる一本です。

登場人物、味があるなあ。

なんだか長く続くストーリーの中の一話分を見ているような感じです。

なるほどダイアリー・オブ・ザ・デッドの続編なのかー。そっちも見なきゃなあ。

## 第9地区

---

突然現れた宇宙人のUFO。

それは南アフリカのヨハネスブルグに出現しました。

中から出てきたのは、エビに似たグロテスクな宇宙人。

彼らは難民のような状態で地球にやってきて、地球に住み着くことになりました。

すごいテクノロジーをもっているのだけでも、多くの難民宇宙人は働きアリのような状態で、結構凶暴です。

当然人間とより良い共存ができるわけがないです。

そこで、彼らを管理しているMNUという超国家組織が第10地区にエイリアンを移動させるために、大規模なプロジェクトを開始します。

そして、その責任者が主人公のヴィカスです。

クリストファー・ジョンソンという宇宙人との関わりで主人公はある事に巻き込まれます。

エイリアンの超兵器は、遺伝子を判別し人間が操作することはできません。

しかし、ある液体を浴びエイリアン化していった主人公は、これらの兵器を使用する能力を身につけます。

そのために人間たちから狙われることになります。

かつて支配する側だった主人公は、支配される側に立場が逆転します。

人権を、すべてを奪われます。

そしてエイリアン側の立場になる事で、人間がエイリアンに行っていた生物実験や虐待を知るのです。

テレビのドキュメンタリータッチで始まったこの映画。

展開がものすごいです。

もう途中から胸が苦しくなります。

これは考えるにエイリアンだから許される表現なのかもしれません。



これと同じことが、支配する側とされる側で実際に世界のどこかで起きているのではないのでしょうか？

そして人間の歴史はそれを繰り返してきたのです。

考えようによっては重いテーマですが、それを説教臭く伝える映画ではありません。

エイリアンの超兵器はすごい迫力ですし、2足歩行の人型（エイリアン型）メカの戦闘シーンはそのすごいです。

けっこうエグいシーンも多いのですが、あっという間の111分です。

そして見たあとに胸にドーンとした気持ちが残る一作です。

## アサルトガールズ

---

途中で早送りした映画って久しぶりです。

心置きなく戦闘シーンと、キレイな女性を堪能できるお膳立てが手抜きすぎます。

ストーリー。

アヴァロンというネットゲームの新区画、アヴァロンFでボスキャラを倒すためプレイヤーが協力する話。

それだけ。

いや、たしかに女優さんはキレイだしスナクジラもかっこいいのですが、正直このシーンだけでいいです。

冒頭のシーンもなんかやっつけ感覚ばりばりというか、正直うんちくたれるシーンで字幕はあわないよなあ。

黒木メイサのお尻はよかったよ。

すごくきれい。

佐伯日菜子は可愛いし。

菊地凜子は扱いが不憫だなあ。

なんか特別に強い三人って感じではなかったし、女神てりえるのか疑問です。

味のある情景の中を移動するシーン、淡々と背景を写すシーンは押井守の定番ですが、こんな殺風景なとこでやられてもなあ。

そして格闘シーン。ギャグなんだろうか？くどすぎる。エンドレスエイト思い出したよ。

画面に格闘ゲームのような対戦表示も安っぽい。

そしてオチ。

もうなんていうか押井守好きだけど、この映画はいただけないなあ。

変な味を出すにも、まじめにいくにも中途半端すぎます。

正直お勧めできません。

## ラーゼフォン劇場版

---

多元変奏曲。

ネタばれ気にせず感想です。

完全にハルカとアヤト二人をメインにしたラブストーリーになってます。

ああ、なんかいろんな意味で胸が痛くなります。

アヤト君がうらやましい...(ともいいきれないけど)

テレビ版では、エヴァと比べられましたけど、ぜんぜん別物ですね。

とても話がシンプルになったのは、すごくよかったです。

ただ一つ残念なのは、久遠ちゃんの出番が少なかった事です。

テレビではサービスシーン続出でしたがね。

ミニでストッキングなあの姿もでないですし、寒い中下着で飛び出して...ってのもないです。

でも美しいです。もう大好きです久遠ちゃん。

そして、ぜったい残るだろうと思ってた朝比奈ちゃんの鬱エピソードはちゃんと残ってましたよ。

そして世界の調律...。

ラストはオリジナルです。

最後に映る地球を見て、「あれっ？」と思ったのですが...。

うーん細かい。

いろんな解釈はできると思いますけども、引き離された二人が再び出会い、失われた思い出を取り戻す展開が素敵です。

しかし...やっぱり久遠ちゃんをじっくり見たかった。

ううう。

予備知識をもった上で、ご覧になる事をおすすめします。

## 実写版ヤマト

---

えーと、ネタバレ気にせず感想です。

実写版のデビルマンを見て以来、こういった映画の評価がとても寛容になった僕です。

たぶんオールドヤマトファンの中にとっては、怒るポイントが多々あるでしょう。  
ただ、佐渡先生が女性なのと雪がパイロットの時点で、これはアニメとは別物だと考えなさいよっていう事です。

なのでヤマトの遺伝子を持った別作としてみた感想は...

普通に面白かったです。

あ、あと黒木メイサのスタイルがよかったです。

まあ短い時間内にちゃんとまとまってたかな？ってところです。

しかし、別物とは言え古代進は、どうしてもキムタクキャラが勝ってますし(いや悪いわけじゃないけど)

どうも軽いイメージのある若者たちに深く感情移入できない部分はありましたけども...。  
思ってたほど悪いデキじゃなかったなあというのが正直なところです。

個人的に1番ドキドキしたシーンは、古代の昔の知り合いの安藤くんが所属場所を告げるシーン

「今、第三艦橋に配属されてます」

いやー！　なんて死亡フラグ！

あそこにだけは配属されたくない場所ナンバー1！

そして2番目の衝撃、アナライザー！！

いや、あの形状だったらスカートめくりやすいだろうに！

いやめくるスカートがないか！

それ以前にあの姿は...

そして、真田さんの「こういうこともあるかと...」がなかった点、

それにしてもキムタク古代、恐るべき力。

ワープ時のナニで子供を作っちゃうとは、さすが百発百中。

どうしても見た事のあるシーンが多かったりしますし、ガミラス艦の形状から敵は人の形してないだろうなと読めたり...、その他アルマゲドンなのか？日本沈没なのか？といった思いはありますが...

しかし、こういったSF系の映画は最近ないので、ちょっとうれしいのです。

やはりありきたりの恋愛映画等のほうが収益はあがるでしょうから...

でも、もっといろんなジャンルの冒険した大作を見たい気がします。

そんな意味で、今回の実写版ヤマトは結構楽しめたんじゃないかと思うのです。

## プレデターズ

---

ネタバレ気にせず感想です。

プレデターの続編ですね。

ほんとに迷惑なやつらですよプレデターって。

すごい科学力をもってるのに、使い方が間違ってる。

不思議なジャングルに、何人かの人間がほうり込まれる。

なんでこんなところにいるのかしら？

みんなパラシュートで降下する直前のことを覚えていないのです。

一人、医者と名乗る男を除いて、

みんな戦士や死刑囚。

つまりプレデターたちがハンティングを楽しむために、あちこちから猛者を連れてきて、シーズンごとにやってる行事みたいなもの。

で、つれてこられた人も、けっこう個性的。

なかでもヤクザ！

うーん昔の任侠というか、こりゃ侍ですなー。

プレデターとの一騎打ちは、チャンバラのパターン中のパターン。懐かしい！

あと吹き替えを玄田さんがやってたので、キーマンかと思えば、何しにでてきたんだらうっていう男がいたり...

そして医者ね。

ぜったい何かあるポジションだけど、どっきりにいまいち感がありますね。

プレデター達も、タカみみたいな偵察ロボとぼしたり、ジョーボードンの獣みみたいなモンスターつかったりと、いろんなやつがいるのだけど、いまいち個性にかけるのです。

僕らになじみの深いプレデターも、ただのやられやく。

けっきょく1番頑張ってたのは、人間である主人公です。

人が1番コワイって事でしょうかね？

いや、違うか...

面白くないわけではないですが、もっと面白くなる余地はあるんじゃないか？って一本でした。

## トロン・レガシー

---

ネタバレは気にせず感想ですが、ストーリーは簡潔でわかりやすいです。

話は前作の続き...と言っても、前作もシンプルな話なので問題ありません。

とある企業のトップである主人公の父は、息子を置いて消息を絶ちます。  
そして主人公が大きくなったある日、父の友人にポケベルメッセージが届きます。

古びたゲーセンの地下にあったのは、グリッドと呼ばれるデータ世界への入口でした。  
そこに入りこんでしまった主人公の物語です。

目玉はやはりライトサイクルのバトルでしょうか？

ディスクバトルやらアクションシーンは多めです。

戦車や飛行体のデザインも過去の作品とデザインの延長なのがうれしいですね。

ただ全体的に同じ色調の中で話しがすすむので、少しトリップ感というか、そういった単調さはありますね。

そして前作で印象的だった空母も、似たデザイン。

ただ、前作ほどのインパクトはなかった気がします。

当時はCG自体が売りでしたが、今作はCGを売りにするにもCG自体をみんなが見慣れた感覚があります。

そこで3Dなのでしょうが...

正直、トロン本編よりも予告のほうがすごかったように思います。

ただ、光の筋が入るデザインは一貫していて美しく、父と息子の絆といった軸もあり、なかなか楽しめる映画ではありました。

あと女性キャラのお尻。

ここはなかなか見所...いえ、なんでもありません。

安心して家族で見れる内容なのでご心配なく....。

しかし黒髪ヒロインといい日本のアニメに影響を受けてるように思いますね。



オシャレにまとまっています。突出して受ける要素がないのが残念ですが、わかる人にはわかる心地よさを備えた映画だと思います。

## スタートレック（新劇場版）

---

ビギニングといいましょうか？ヤングスタートレックといいましょうか。  
J・J・エイブラムス監督の2009年作品です。

ストーリーは、なぞの戦艦の攻撃で命を落とした父の息子、ジェームズ・T・カークがエンタープライズの船長としてスポックとの関係を築くまでの物語です。

もう冒頭のカークの父がカークとその母を助けるために戦艦と運命を共にするシーンから涙腺がゆるんでしまってエライことに…。

まず画面の中の光の使い方と構図がどれも素晴らしすぎます。

セットの汚れやレンズのぶれ、細かいカメラワークがリアリティをだして、安っぽさを感じないのです。

話自体はそんなに複雑ではなく、時間移動を含んだある意味定番SFなのですが、味付けがいいんでしょうね。

スターウォーズファンであるという監督、だからこそファン以外の人間が見ても楽しい作品を目指したらしいです。

でもちゃんと昔からのファンがニンマリするシーンもたくさんありますよ。

カークにスポック、そしてミスターカトー。

みんな若いなあ（って違和感なく思える）

中でもヤングスポックがおちゃめ。

NG集が妙に力はいってるのね。

で、圧倒的存在感なのがレナード・ニモイですよ。

しびれますよもう。

メイキング見てたら結構CGに頼るだけではない映画作りしてますね。

この前、「スペースバトルシップ ヤマト」を見たので、比べてしまいますね。

この映画見たら何が「ヤマト」に足りなかったのかがよくわかりますよ。

ご都合主義的な部分も少しあるのですが、それが気にならないぐらいに素晴らしい。

本当に素晴らしい。

心から、スタートレック初めての人にもオススメしますよ☆

## 劇場版 マクロスF 恋離飛翼～サヨナラノツバサ～

---

ネタバレ気にせず感想です。

ものすごい満足感です。

映像的にも…。

まずシェリル！エロ可愛い！

そしてランカ、こっちも可愛い！

キレイな映像、素敵な音楽。

そして素敵な戦闘シーン。

ものすごいゴージャスな物を見て気がします。

一番好きなのは、刑務所脱出ライブ。

ファイヤーボンバー！

マクロスプラスの主人公も機体と声だけ出てなかった？

そして何よりうれしいのが、松浦ナナセ祝映画登場！

あと、もう一つ好きなのは、ギャラクシーのフロンティア乗っ取り作戦。

このシーンは不謹慎ながら気持ちよかった！

それからそれから、グレイス！たまらんわグレイス！

ややこしいながらも、敵がハッキリしていて、話自体もストレート。

そして、屋上のマーキングしかりトライアングルも、他の恋愛物と比べればストレート、テレビで亡くなったキャラも救済され(あの眼鏡さんです)

このままラストがハッピーエンドでは、気持ち良い思いだけ残ってしまったでしょうね。

意外と「なんだか凄かった」で終わってしまったかもしれません。

ネットのネタバレでも、バッドエンドだ！とか言われてましたが、僕はテレビ版の最後より心に残ったし、良いラストだったと思います。

なぜなら希望的な望みを残したラストだったからです。

まずシェリルにランカからの輸血(?)バジユラ細菌への免疫がシェリルの体に入った訳です。

そしてアルトと繋がるイヤリングが光ってました。

そしてラストの選曲からしてもやっぱり、この映画の先にはハッピーエンドがあるんだと、信じてます。

そんなこんなで、個人的には大満足な劇場版でした。

## エンジェル ウォーズ

---

コマーシャルから気になってたんですね。

ミニスカヘソだしセーラー服に、刀と銃。

そして変なガトリングガンを撃つ鎧ロボ（大魔神？）やドラゴンや、ゾンビたちと戦う映画。

まさに日本アニメのキーワードですね。

母の死後に遺産の相続者に指名された二人の娘。

しかし遺産を奪い取る事を企む義父が、妹を殺害し姉を精神病院に入れ、裏金でロボトミー手術にかけようとしています。

その姉というのが本編の主演（ベイビードール）

スタイルいいですねー。ただ顔はやはり…。うーむ三次元。

ブロンドですが少し海外のイメージするアジア人の顔が入ってるような気が…。

「300」の時も思いましたが、映像はやっぱりすごいですね。

特に最初の巨大侍を相手にする戦闘シーンは必見です。

しかし映像がすごすぎて、だんだん麻痺してきます。

うさちゃんマークのパワードスーツが登場したりとニヤリとさせますが、どうも日本のアニメのイメージで見ると、すこしお約束にのっていない気がするのです。

どちらかというとならんと日本アニメ的要素よりも戦争映画っぽくなってしまって…。

各5人娘にもうちよ個性があったら面白かったかもなあ。

基本の現実世界に多重にオブラートをまいた空想世界で話が展開します。

精神病院という現実。

その中で「劇場」と呼ばれる場所で「娼館」としての妄想世界。

そして、さらにバトルを繰り広げる妄想の妄想世界。

映画の中での戦いの多くは、妄想の中の出来事なのでしょう。

ゲームの主人公のような力を発揮し、戦う彼女たちの魔法も長くは続きません。

日本のアニメでは、最後に巨大なラスボスや最大の敵を倒すというような展開がありますが、この映画の最後、帰結するのは現実世界です。

妄想の中のドラゴンやゾンビよりも、勝つことができない現実の流れ。

いや、完全に敗北というわけではないのですが、映画のビジュアルで考えると少し煮え切らない気もします。

しかし、妄想世界の裏で動いてた現実世界…。

せまるロボットミ一手術って考えたら、なんという悲しい結末なんだろう。

それとも、このラストですら多重妄想世界の底のレイヤーにすぎないとか？

ああ、オバカ映画だという気構えで見てたから、どうも複雑な心境です。

それとも繰り返し見れば何か新しい発見があるかな？

## フィースト

---

ネタバレ気にせず感想です。

とある田舎の町にあるバー。  
そこに集う名もなき登場人物たち。  
彼らを襲う謎の生物！

いきなり飛び込んできたヒーロー（自称、救世主）が瞬殺です。

ホラーのお約束なんてお構いなしです。  
そしてお子様にも容赦ありません。  
(と、というか教育上に悪いこの世界から、早々に退場させようという親心でしょうか?)

笑っていいのか、それとも...。  
見てるときは気づきませんが、後で思い出せば  
けっこうグロいシーンが多かったですよ。

足チョンパ、頭チョンパはあたりまえ。  
頭バーンやら、ウジまみれのモンスターゲロどばああやら。  
まあ超大サービス。

とりあえずお好きな方だけには超オススメシーン満載です。

と、というか、コレOKな人ならばフィーストの2と3も見たいでしょ。  
いや、僕も見たいんですけどね。

なんというか、おっぱい担当のヒロインがナイスですよ。  
2も3も出てるってことは...。  
いやぁ楽しみですね。  
3まで見終わったときになにを感じるかですね。  
また感想書きますね。



## フィースト2と3

---

えーっと、ネタばれ気にせずに感想です。

この映画の見所は、刺青女のトップレスとハニーパイのパンツ。  
いやーアホだけど可愛いよハニーパイ。たまらんよハニーパイ。

謎の生物襲撃から一夜明け、店を抜け出した主人公や、バーのおじさん、前作で爆死したねえちゃんの姉妹（だっけ）  
が目指すのは、近くの町。しかしそこもすでに…。

カミさんを寝取られた車屋の主人や小人レスラーなど怪しい人物が増えます。

車屋の妻の浮気相手が、一見インテリだけど超ダメ人間。  
やることなすこと裏目に。

なかでも謎の生物を解剖するシーンは最悪。

ドロドロのゲロゲロ。

そして、赤ちゃん救助のシーンが最悪。  
いや、わざとなんだろうし最悪はほめ言葉なのかも。

とにかく一見マトモそうな人が、すぐ死んだり変な人だったり。  
裏切られまくります。

で3.

「最終決戦」とか書かれてたら期待するじゃないですか。  
ところが…。  
ふう。

まず画面が暗いのが一番マイナスだなおどあ  
笑っていいのかな？

そして衝撃のラストが。

真面目に見てたら見てるほどショックが大きいですよ。うん。